

## 仏はいずこへ

今年の夏は、大変でした。墓参りの最中に台風の襲来、その後、雨降りばかり、畑に影響を及ぼして、野菜の値段の高騰、そして私たちの暮らしが苦しくなりました。また全国各地で、大雨の被害で、多くの方が犠牲になりました。最近の世情はあまりにも悪いことが起こりすぎています。

こんなことが続くと、将来の夢がなくなり、殺伐した世の中で、どうでもいいと投げやりな生き方をする人が出て、治安も悪くなります。誰もが安心した社会を築くことができるのかと疑問を感じます。と悲観的なことがあいさつになり、恐縮です。

でもこれが真実ではないでしょうか。今の事を解決しなければ思い、苦悩に満ちています。そんな折、最近、親子連れ、夫婦連れ、友達同士、気ままな一人旅をされている方が、当山に参拝に来られます。そして、偶然の出会いから、本堂などを案内しますと、感激して帰られます。ある一瞬の出会いから、参詣者との心の交流が生まれると、いい思い出になります。

今や苦難の時です。これ乗り越えることが幸せを築くことになります。

地獄はいつまでも続く



ものではありません。地獄で修行すれば、必ず極楽はやってきます。極楽の世にする

ためにも、耐えなければならぬのです。苦しみから抜け出るには、努力の行動しかありません。努力をしていると仏様に守られている実感がわきます。とりあえず仏様がいてもらえる環境をするのは私たち人間の役割です。お彼岸にはお墓参りをし、仏様に喜びをあたえましょう。

## 法事とは何か。

法事とは、亡き方を供養するとともに、親戚縁者の安否を気遣う集いです。そして、お仏壇やお墓、寺院で、故人（仏様）に供物や花を供え、お経やお線香をあげ、手を合わせ、自分及び家族の幸せを祈ります。功德は、善行を積むことで、仏さまの恵みや御利益を得るのです。また、回向は、仏さまの力によって、功德を差し向けていただくことでもあります。

先祖供養は、わが命のルーツに感謝する行為です。

今日、私たちがいるのは、ほかならぬ先祖の人々のおかげで、ご先祖の誰ひとり欠けても現在の自分は存在しません。

また一方で、生きている私たちが在りし日の故人を偲び、故人への感謝の思いを新たに、充実した日々がおくれるよう自身自身を見つめ直し、生きなおすために健康、長寿の祈願も含まれています。

法事をする事で、その善行を積み重ねられ、残された家族のきずなが深まり、命の保障につながっていきます。

## 今後の予定

## 門中共同大蔵経会法要

十月二十五日(土)～二十六日(日)

場所 朽木市場 慶寶寺

布教師 野洲 戸田即善師

御詠歌隊と可愛い稚児行列四十五人で法要をにぎやかにされますので、お参り下さい。

皆様方には心苦しいところですが、供養袋(千五百円)のご喜捨をお願いします。

この大蔵経会は、戦後六十年以上続けられている法要であり、多くの方々とお会い、喜びを感じ、人生にとって素晴らしい生き方のヒントが得られる高島の伝統行事であります。

## お十夜法要

日時 十一月八日(土)

午後二時



まことの富とは、  
財物ではなく、心である。

人の一生は、「しあわせを求めての旅」ということができよう。ただ何を幸せとするかは各人それぞれである。

ある日、釈迦の弟子でビンドーラと幼なじみのウダヤナ国王がおられて、ビンドーラ尊者は、林中で座禅をしていると伝え聞いたウダヤナ国王は、多くの家来と女官を従え、美々しく装いをこらして、尊者を訪ね、こういった。

「私は今、諸国を征服し、その威徳の盛

んなること天日のごとくである。頭には天冠、身には擁烙をまとい、多くの美女を羽部らかして、どうだ羨ましくないか」尊者はたった一言「吾に羨ましくなし」と答えられた。ちつとも羨ましくないとするのである。ここで幸せの中身が違うことに気づく。国王の思っている幸せは、飾る衣装などといった持ち物ばかり、肝心の持ち主の王自身、衣裳に酔って主人公である自分のしかも今日只今の生き方問うことを忘れている王の姿は、尊者は哀れにうつったことである。

持ち物ある限り、無常という。山に積まれた財宝も借金に変わる日が来るのを当たり前。昨日の大臣は、今日は刑務所へということも珍しくない。我が子、わが夫としてのかげがえのない命として大切に思っていたものも、お迎えが来たときおいて行かねばならない。持ち主の私の今日只今をどう生きるかを本気で問い、いつ死んでもよい日々の生き方ができることこそ、最高の幸せではないでしょうか。

## 年末の本堂掃除の予定

十二月二十三日(火) 午前八時

協力下さる方は、ご集合下さい。

## 発行

高島市安曇川町田中三四五九玉泉寺 木村哲基

電話 (0740) 3210791

携帯 090-370872106

メール svk337375@lfto.eonet.ne.jp

「天台真盛宗玉泉寺」のホームページに住職日記を更新しています。